

病院機能評価の受審を終えて

—実践力ある取り組みを—

看護副部長 三笠 照美



去る9月19日、20日の2日間、5年ぶり3回目の病院機能評価(3rd.G.Ver1.0)の受審を無事終えることができました。思い起こせば準備委員会の発足よりわずか数か月というスピード受審でした。新棟への引越、電子カルテ導入、病院機能評価受審と永頼会設立50周年にふさわしい、心に残る3大イベントとなりました。

今回、受審のキーワードは「患者目線」、「チーム医療」であり、職員一丸となり改善に努めてまいりました。看護部でも「全員参加の機能評価」をキャッチフレーズに、度重なる会議、シミュレーションをこなしながら奮闘の日々が続きましたが、改めて看護部の実践力ある取り組みを頼

もしく感じました。病院職員の皆さんの理解と協力に感謝します。また今年度の病院スローガンである「変革と育成」を全身で感じた期間だったように思います。

病院機能評価の受審を通じて、管理者にとっては自院の現状を把握する良い機会となりました。職員をエンパワメントし、病院が内に有する力を発揮させる良い契機となり、全員で「医療の質の向上」という一つの目標を目指すことで、チーム医療としての絆も深まりました。

今回の受審がゴールではなくスタートとして、これからも一緒に働きたいと思える職場作り、さらには患者さんに選んでいただける病院作りを目指していければ

と願っております。

来年度の新棟グランドオープンに伴う増床に向けて、来春の新採用看護師の面接も昨年を大幅に上回り、今年度の新人看護職員は一人の離職もありませんでした。来年度は臨地実習の受け入れも増やして今後の看護職の育成にも注力していきたいと考えております。

新設した地域包括ケア病棟、訪問看護課も軌道に乗り出しました。地域に根ざした思いやりのある医療が患者さんに還元できるように、今後も改善を続けて邁進していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。

新S棟建設プロジェクト!

清水建設株式会社
ひがしてよしひろ
東出 好弘さん

清水建設株式会社 四国支店 設備部 (愛媛の設備部は一人だそうです) 横浜市出身、33歳。平成16年芝浦工業大学電気工学科卒業。7年間の大坂勤務後、2年前より奥様、娘さんと松山にお住まいです。休日は子供と遊んだり、買い物やゴルフに行かれるそうです。

今回は、電気・空調・衛生・水周りなど設備の工事の管理や打合せをされている東出さんにお話を伺いました。

現在、地中障害の撤去や建物を支えるための杭打ちが完了し、タワークレーン組立て、地下の免震装置の施工に入っていくところです。この工事が終わると鉄筋とコンクリートで建物全体の骨組みを造ります。その後、コンセントや照明、空調などの設備を取り付け、天井や外壁のタイルなどを張る仕上げ工事に入ります。建築は人間でいう骨や筋肉、皮膚であり、設備は血液だとよく言われます。建築ができて設備がないと建物として機能しません。そうならないように血液をうまく回すのが設備の仕事です。

モットーは、使い勝手のいい建物ができるようユーザーの意見を聞いてものを造っていくことです。病院は多様な専門分野の方がいて、部門によって使い方や考えが違うので、色々な人に意見を聞いて設備の位置などを決めています。また、特殊な建物なので、水や電気の事故などが絶対に起こらないように気を付けながら工事を管理しています。

建て替え、改修工事もと1年となりました。関係者の皆様にはこれからもお話を聞かせていただくことになると思いますのでよろしくお願ひします。



これからの検査技師像

について

臨床検査室 技師長 西岡 洋一



臨床検査室は病理部の大拙祐治常勤顧問、検査室の清家泰囀託医のもと32名の検査技師で構成されています。業務としては臨床化学検査、細菌検査、生理検査、病理検査、血液・一般検査の5部門からなり、正確なデータを迅速に提供することを日々心掛けています。

近年医療技術の進歩は目覚ましく、短時間で早く正確に検査をすることで診療前検査が可能となり、外来患者さんのメリットにつながっています。技師は「早く」と「正確」の相反する結果を求められていますが、システム等を利用し、試薬の調整・機器の整備・結果の再確認など細部にわたりチェックすることで、信頼性のある検査結果を提供することができています。

また、医療の変化により「効率良く検査する技師」から、「より付加価値のある結果を提供する技師」が必要とされています。そのため、各種研修会に登録・参加し、認定資格を取得するなどスペシャリストの育成を推進しています。

一方、生理機能検査は多職種間での業務が多く、チーム医療としての協調と連帯を基本に個々の力を伸ばしてゆく必要もあります。さらには、病院理念にも掲げている高度急性期医療を目指す中、複雑で多岐にわたる臨床からの要望にも柔軟に対応しなければなりません。

検査室では今後も技師一人一人が技術の向上に努め、精度の高い検査結果を提供できるよう「変革と育成」に取り組んでまいりたいと思います。